令和５年（2023 年）３月 22 日
札幌市動物愛護管理推進協議会

資料 ②

令和４年度市民アンケート結果概要について

1　アンケート諸元

方法　：　総）市民の声を聞く課が実施するインターネットアンケート調査
人数　：　性別・年代で均等に割り付けた札幌市民　480 人
期間　：　令和４年 12 月（過年度実施　平成 28 年 11 月、令和元年９月）
設問　：　全 26 問

2　結果概要

⑴　動物愛護管理推進計画の数値目標に係る設問

「札幌市民全体に動物愛護精神が広まっている」と考える方の割合は、全体の 19.0％であり、過去のアンケート結果と比較しても大きく変化はなく、目標の達成のためには施策の見直しが必要と考えられます。

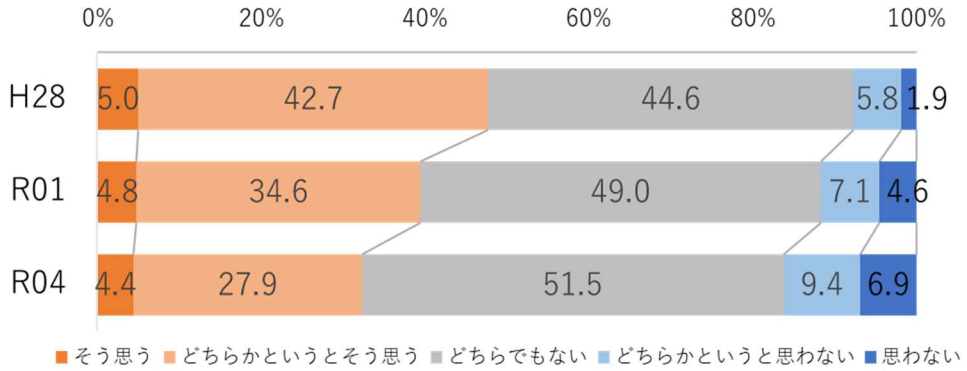
	H28	R01	R04	R09 目標
そう思う	2.1	3.3	**4.6** ↗	-
どちらかというとそう思う	17.7	16.9	**14.4** ↘	-
（上記合計※数値目標）	19.8	20.2	**19.0** ↘	50
どちらでもない	50.6	52.9	**50.4**	-
どちらかというと思わない	18.5	18.5	**15.4** ↘	-
思わない	11.0	8.3	**15.2** ↗	-

（単位：％）

⑵　動物愛護管理基本構想の目標に係る設問

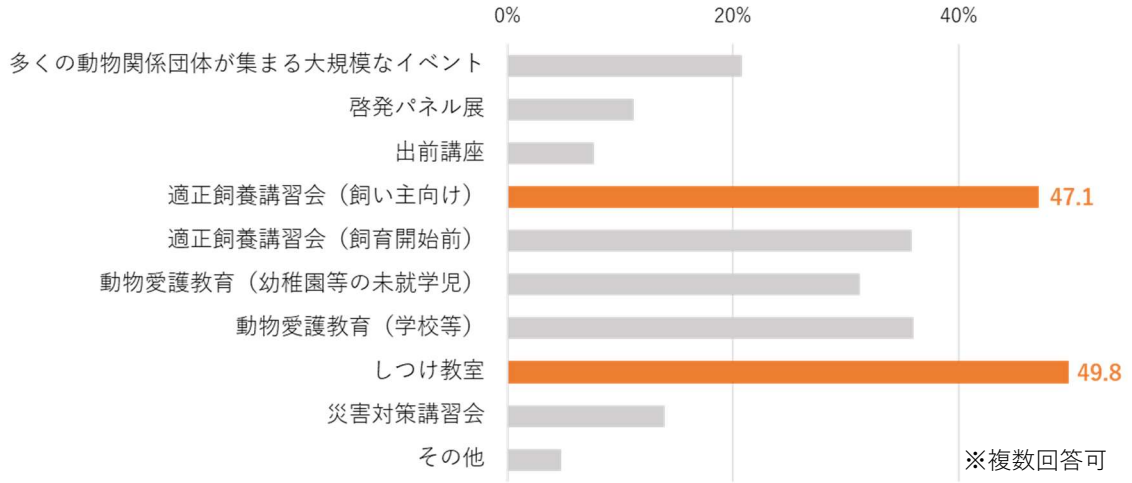
「札幌市が『人と動物が幸せに暮らせるまち』だ」と考える方の割合は、全体の 32.3％であり、過去のアンケート結果と比較して、徐々に減少傾向です。

そうだと考えない理由としては、「飼い主等のモラルやマナーの課題」が 67.9％となっており、飼い主の義務・責務を重視する市民意識があると考えられます。



⑶　動物愛護管理に係る市民意識の設問

動物愛護の精神を広めるためには、「適正飼養講習会（飼い主向け）」や「しつけ教室」が重要だとする回答が多くありました。



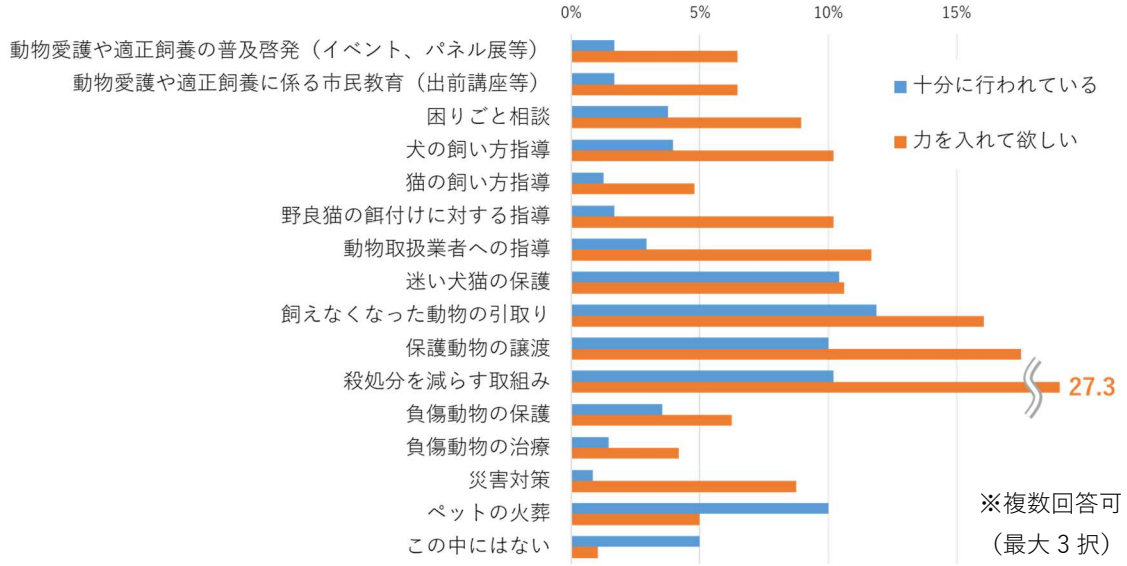
このような講習会については「区役所・区民センター」での開催を望む声が多く、「保健所・動物管理センター」での開催を求める声は、複数提示した選択肢の中で最も少ないものであり、新センター供用開始後の普及啓発事業の推進の上で課題になると考えます。

⑷　動物管理センターに求められる役割に関する設問

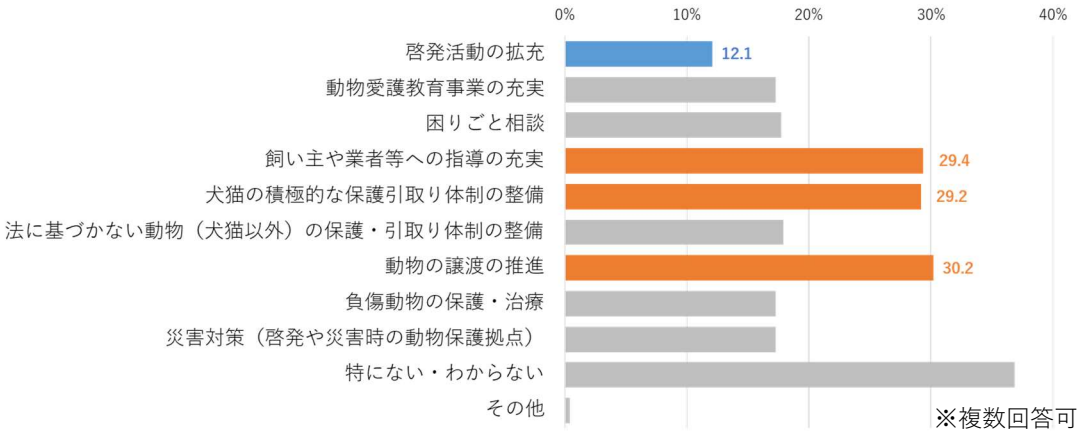
動物管理センターの認知度は低く、約６割の方が「施設を知らない」と回答されていました。

施設を知っている方についても、「動物の収容と譲渡や殺処分を行っている施設」という認識の方が多く、「普及啓発や教育指導を行っている」という事に関する認知度は低いという結果が得られました。

「もっと力を入れてほしいこと」として、「殺処分を減らす取組み」を筆頭に、動物の取扱いに関する回答が多く集まっています。

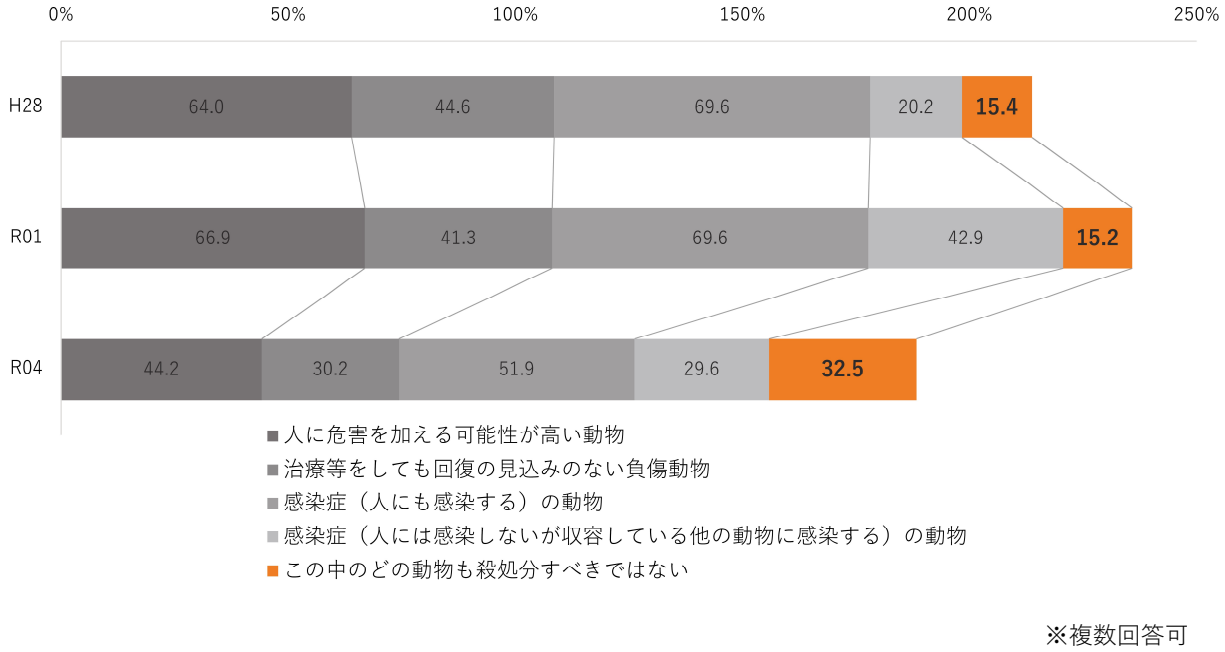


新センターに求めることとしては、収容や譲渡といった動物の取扱いの他、「飼い主や業者等への指導の充実」の回答が多くなっています。

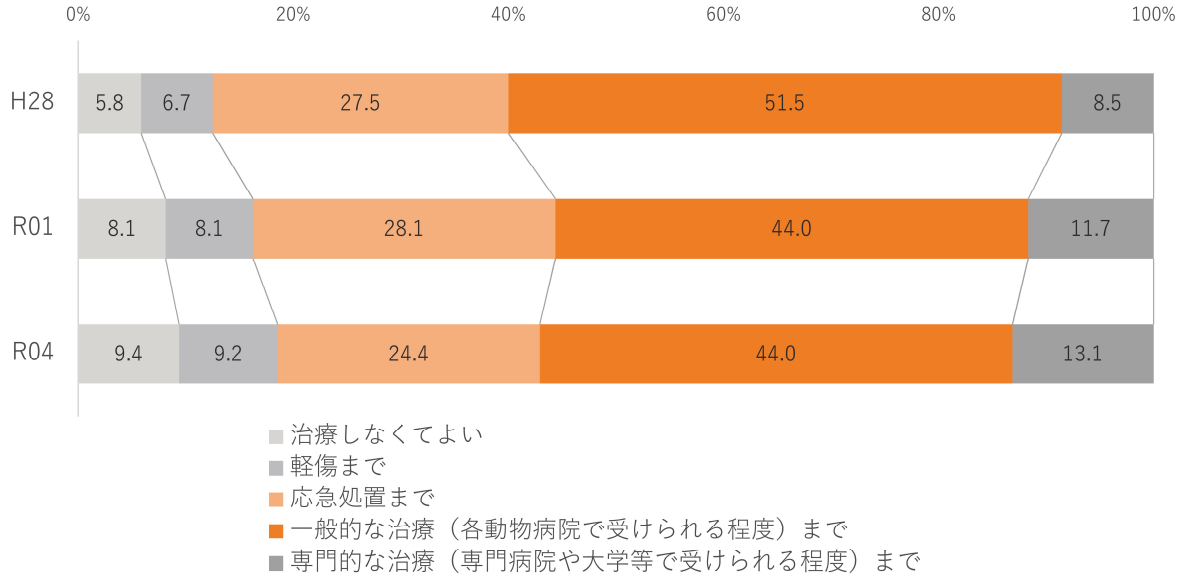


⑸　収容動物の譲渡又は殺処分に係る設問

譲渡適性の低い動物について、「殺処分するべきではない」との回答が３割超ありました。過去のアンケート結果に比して倍近くの回答が集まっており、殺処分低減を望む市民意識が高まっていると考えられます。



また、動物管理センターにおける収容動物の治療等については、一般的な動物病院で受けられる程度までのレベルを求める声が、過去と変わらず最多であり、さらに高度な治療を求めると答えた人と合わせると５割以上が収容動物への手厚い治療を求めていることがわかりました。



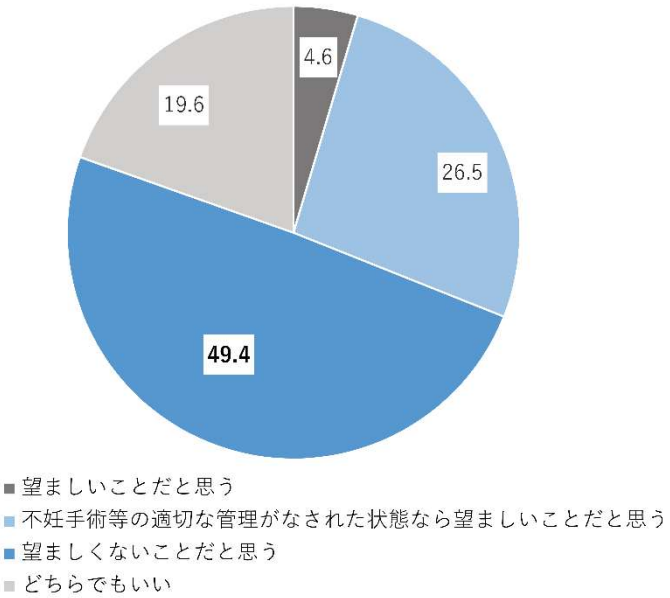
※単一回答

⑹　野良猫に係る項目

「野良猫を見かける」という回答は年々減少しており、市全体として野良猫の減少・局在化が進んでいると言えます。

また、「野良猫がいることについてどう思いますか」という問いに対し、約 50％の方が「望ましくない」と回答されました。一方で、「望ましい」と考えている人は５％を下回りました。

引き続き、「飼い主のいない猫ガイドライン」の「野良猫を増やさず減らしていく」方針に則った事業や、室内飼養の普及啓発に努めていく必要があると考えられます。



⑺　ペットの災害対策に係る項目

災害対策・防災啓発の参考として新たにアンケートを実施（２問）。

「市内の避難所は同行避難可能である」ということの認知度は 35％、災害対策に係る普及啓発が不十分であるという回答が４割超ありました。